

熱海市文化施設施設概要

熱海市教育委員会 生涯学習課

目 次

	ページ
1 熱海市立澤田政廣記念美術館	1
2 熱海市起雲閣	2
3 熱海市池田満寿夫・佐藤陽子 創作の家	4
4 熱海市池田満寿夫記念館	5
5 熱海市立伊豆山郷土資料館	7
6 熱海市凌寒荘	8

澤田政廣記念美術館

生涯学習課文化交流室

熱海市制施行50周年記念事業として昭和62年11月3日に建設された。建設経緯については、文化勲章受章により後援市民から記念館建設の要望陳情、募金活動等があり現在の場所に建設開館したものである。なお、館名は平成16年11月3日に「澤田政廣記念館」から「澤田政廣記念美術館」へ改称された。

- 1 所管経緯

昭和62年11月3日	開館	所管	熱海市教育委員会管理課
平成6年4月1日	所管替	所管	熱海市教育委員会
平成14年4月1日	所管替	所管	観光文化部
平成17年4月1日	所管替	所管	観光文化部文化交流課
平成20年4月1日	所管替	所管	観光経済部文化交流課
平成25年4月1日	所管替	所管	熱海市教育委員会生涯学習課

- 2 所在地

熱海市梅園町9番46号（地番 熱海市梅園町1191番地の1ほか）
- 3 借用地

伊豆箱根鉄道（株）より借用
借地料（令和2年度 6,520,300円）
賃貸借契約日 昭和61年12月23日
- 4 敷地面積

3211.67㎡（973.23坪）
- 5 建物面積

897.34㎡（271.92坪）・・・下記の合計（①+②+③）

①本館	572.00㎡	鉄筋コンクリート造平屋建、一部2階建
②蔵品館	214.80㎡	鉄筋コンクリート造2階建
③アトリエ	110.54㎡	鉄骨造2階建
- 6 建設着工日

本館～昭和61年12月19日
（蔵品館～平成3年8月6日・アトリエ～平成8年12月28日）
- 7 建設完成日

本館～昭和62年10月31日
（蔵品館～平成4年3月25日・アトリエ～平成9年6月30日）
- 8 総事業費

408,861,900円
（本館273,430千円+蔵品館96,645千円+アトリエ38,787千円）
- 9 公開

休館日 月曜日（但し祝日、年末年始、梅園梅まつり期間中は開館）

入館料	大人380円	中高生250円	小学生以下無料
	※梅まつり期間中は入館料無料（平成22年度～）		
団体割引	大人250円	中高生120円	
開館時間	9時00分～16時30分		
駐車場	専用（普通車15台）無料		
- 10 管理運営

直営 会計年度任用職員6名登録、一営業日に2名が交代で勤務
- 11 収蔵品

約6,500余点
（彫刻200点、絵画1200点、その他180点ほかコレクション多数）

起雲閣

生涯学習課文化交流室

起雲閣は、大正8年に海運会社などを経営する一方で政治家としても活躍した「内田信也」が母親の静養のために建てた別荘が始まり。

大正14年には鉄道会社など数多くの会社を経営する「根津嘉一郎」が買い取り、自分の別荘として「玉姫・玉溪」、「金剛・ローマ風浴室」の二つの洋館を建て、庭園も現在の姿に整えた。

昭和22年には金沢でホテルを営んでいた「桜井兵五郎」が「起雲閣」と名付けて旅館として開業。山本有三、志賀直哉、谷崎潤一郎、太宰治、舟橋聖一、武田泰淳など、日本を代表する文豪たちにも愛され、映画撮影、将棋や囲碁の対局などにも利用された。

平成12年には、別荘地や温泉地として繁栄した「国際観光温泉文化都市熱海」の歴史を象徴する大切な場所として、多くの方々知ってもらうために熱海市が買い取り、一般公開している。館内は日本家屋の美しさを留める和館と離れ、和・洋・中の装飾様式を融合させた独特の美しさを持つ洋館、音楽サロンやギャラリー等の貸出施設、多くの木々が薫る広大な庭園から構成されている。

平成24年度からは、指定管理者制度が導入され、「NPO法人あたまオアシス21」による管理が実施されており、今や熱海市の観光と文化の拠点施設となった「起雲閣」は、現在熱海市との官民一体となった運営が続けられている。

1. 開館日 平成12年11月28日
2. 休館日 水曜日（祝日の場合はその翌日）、12月26日～12月30日
3. 開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
4. 入館料 大人610円、中高生360円、小学生以下無料
団体 大人460円、中高生240円
4. 所在地 熱海市昭和町4番2号
5. 連絡先 電話 0557-86-3101 FAX 0557-86-3102
メール kiunkaku@i-younet.ne.jp
6. 管理運営 NPO法人あたまオアシス21（平成30年4月1日～令和4年3月31日）
7. 駐車場 普通車37台（無料）
8. 施設内容 ①見学施設 ②貸出施設（8室）音楽サロン1・ギャラリー1・和室6
9. 棟数 敷地内は9棟1門と1つの土蔵（蔵）から構成されている。
○保存建物（市指定有形文化財）
①・②和館2棟 「麒麟・大鳳」「孔雀」
③・④洋館2棟 「玉姫・玉溪」「金剛・ローマ風浴室」
表門（正門） 「薬医門」
○その他の建物
⑤ 常設展示室 3室「文豪の間」「尾崎紅葉の間」「坪内逍遙の間」
⑥-1 企画展示室
⑥-2 体験工房
⑥-3 貸出施設 2階「ギャラリー」
⑦ 貸出施設 和室3部屋 「雲雀」「千鳥」「鶯」
⑧ 貸出施設 「音楽サロン」2階和室3部屋（萩・蔦・藤）
⑨ 喫茶室 「やすらぎ」
土蔵（蔵） 観光案内（コンシェルジュ）・土産品販売

10. 規 模	敷地面積 9,172.74 m ² 延床面積 3,503.14 m ²	9棟1門
11. 文化財	平成14年 3月26日 平成15年 6月27日 平成16年 8月30日 平成17年 9月 1日 平成18年 6月27日	熱海市指定有形文化財に指定 4棟1門 熱海市指定有形文化財現状変更許可（麒麟、大鳳） // （玉姫、玉溪、麒麟・大鳳の一部） // （金剛、ローマ風浴室） // （孔雀）
12. 経 緯	平成 8年 5月16日 平成 9年 7月30日 平成10年 9月30日 平成11年 2月15日 平成11年 8月10日 平成11年11月12日 平成11年12月24日 平成12年 3月24日 平成12年 4月 7日 平成12年 6月 1日 平成12年 9月 3日 平成12年11月28日 平成12年11月28日	起雲閣の不動産競売開始決定 競売不調 競売不調 起雲閣の所有者である日本観光（株）が破産 自主管理組合による旅館営業を停止 熱海市が取得の意向を表明 起雲閣保存に関する署名簿が提出 起雲閣取得議案が熱海市議会において可決 所有権移転 取得価額 12億円 買収の相手方 東京都中央区銀座1丁目8番16号 銀座アスタービル7階 飯沼綜合法律事務所 破産者 日本観光株式会社 破産管財人飯沼春樹 起雲閣整備準備室設置 大韓民国大統領夫人、森首相夫人ほか来館 熱海市文化観光サロン条例施行及び条例施行規則施行 熱海市文化観光サロン起雲閣として一般公開を開始
13. 概要	大正08年（1919） 大正14年（1925） 昭和03年（1928） 昭和07年（1932） 昭和22年（1947） 昭和22年10月22日	内田信也別邸和館2棟竣工（麒麟、大鳳、孔雀） 根津嘉一郎に売却 根津嘉一郎別邸洋館竣工（金剛、ローマ風浴室） 根津嘉一郎別邸洋館竣工（玉姫、玉溪） 桜井兵五郎が取得 旅館「起雲閣」を開業
14. 起雲閣の管理運営主体	熱海市（観光経済部文化交流課 文化観光サロン） 平成12年 6月 1日 平成12年11月28日 平成12年11月28日 平成12年11月28日 ： 平成24年 4月 1日 平成24年 4月 1日	起雲閣整備準備室設置 熱海市文化観光サロン条例施行 熱海市文化観光サロン条例施行規則施行 開館 熱海市起雲閣の設置、管理及び使用料に関する 条例施行 熱海市起雲閣の設置、管理及び使用料に関する 条例施行規則施行 起雲閣の管理運営、指定管理者による管理へ移行

池田満寿夫・佐藤陽子 創作の家
(旧池田満寿夫・佐藤陽子邸)

生涯学習課文化交流室

故 池田満寿夫氏が佐藤陽子氏とともに暮らした住居兼アトリエ。
池田満寿夫の没後、佐藤陽子氏から熱海市に寄贈され、二人の芸術活動の様子と池田満寿夫作品（M&Y事務所からの賃借品）を展示する施設として公開するもの。

- 1 場 所 熱海市海光町112番地の14（10番24号）
- 2 面積など 土地：587.4㎡（2筆）
建物：450.29㎡（木造スレート葺2階建 昭和48年10月）
（鉄筋コンクリート造陸屋根2階建 昭和60年1月）ほか
- 3 経 緯 昭和57年11月29日 売買により池田満寿夫・佐藤陽子が共有で取得
昭和59年12月24日 熱海市に住民登録
昭和60年 1月 鉄筋コンクリート造部分増築
平成 9年 3月 8日 池田満寿夫死去
平成 9年12月19日 土地、建物 佐藤陽子ほかから熱海市に寄付
平成10年 2月19日 所有権移転完了
平成10年 3月14日 モニュメント「宇宙からのビーナス」寄付
平成17年11月 3日 「池田満寿夫・佐藤陽子 創作の家」開館
平成22年11月14日 開館5周年記念イベント「佐藤陽子氏によるバイオリンコンサート」
- 4 寄付内訳 寄付者 佐藤陽子
土地2筆587.4㎡ 71,421,960円
（9年度固定資産評価額）
建物（木造部分ほか）304.73㎡ 6,643,950円
（ // ）
寄付者 エムワンドワイ事務所有限会社
建物（鉄筋部分）145.56㎡ 11,501,310円
（ // ）
モニュメント1体 10,000,000円（推定価格）
寄付合計額 およそ99,567,220円
- 5 公 開 入館料：大人360円、中高生240円、小学生以下無料
団体 大人240円、中高生120円
駐車場：2台
公開時間：9：00～16：30（入館締切16：00）
休館日：火曜日
- 6 運 営 直営（会計年度任用職員5名登録、一営業日に2名が交代で勤務）
- 8 その他 管理補助及び解説要員として平成17年11月の開館以来、ボランティアガイドが活動していたが、平成21年度末をもってボランティアによる補助・解説業務を取り止め、更に平成22年6月末に喫茶営業を終了。
スタッフも3名から2名に減員したが、来館者からの要望を踏まえ平成27年6月1日より、スタッフ数を増員せずに喫茶を再開した。

池田満寿夫記念館

生涯学習課文化交流室

海光町の自宅を住居兼アトリエとしていた池田満寿夫が、手狭になったアトリエの拡充と新たに取り組み始めた作陶の場とすることを目的として、昭和61年12月に建築した「満陽工房」。

自身の作品展示を意図して、平成2年10月に隣接地に増築するも公開には至らなかった「展示場」とともに寄附を受け、展示場2～3階部分を「池田満寿夫記念館」として公開している。

展示品は佐藤陽子氏からの賃借品。

- 1 経緯 池田氏の没後、佐藤陽子氏及びM&Y事務所（代表 佐藤陽子氏）から、一般公開に向けた支援（人件費の負担、湯～遊～バスの延伸）などが非公式に求められていたが、平成17年11月の「創作の家」開館以降、池田作品も含めた熱海市への無償譲渡も視野に入れ、熱海市による一般公開を希望する旨の申し入れがあった。
- 平成18年12月には、佐藤陽子氏が一般公開に向けて、駐車場または休憩用施設用地としてこれに隣接する土地を購入、平成19年4月2日に熱海市に対して寄附の申し出があり、5月30日付で受領。6月19日に移転登記完了。

- 2 所在地 熱海市下多賀字奥山田

3 土地

地番	面積 (㎡)	評価額 (円)	備考
1130-1	828.68	20,069,800	満陽工房 M&Y寄附
1129-7	250.16	6,058,625	記念館 M&Y寄附
1130-7	166.00	912,834	新規取得地 佐藤陽子寄附
	1244.84	27,041,259	

4 建物

名称	延面積 (㎡)	評価額 (円)	備考
満陽工房	343.65	7,060,975	鉄骨造平屋建て陸屋根 M&Y寄附
記念館	381.64	19,193,183	鉄骨造3階建て陸屋根 M&Y寄附
	725.29	26,254,158	

※記念館の建築面積は133.65㎡ 評価額は19年度のもの

- 5 公開 開館（公開開始）：平成19年11月3日（土・文化の日）
 開館日：土・日・月曜日及び祝日
 入館料：大人610円、中高生360円、小学生以下無料
 団体 大人490円、中高生240円
 駐車場：多数あり
 公開時間：9：30～16：30（入館締切16：00）

6	運 営	直営（会計年度任用職員4名登録、一営業日に2名が交代で勤務）
7	内 容	陶、ブロンズなどの立体を中心に、版画、陶板など約60点を展示
8	その他	満陽工房の公開、陶芸体験の実施、中張窪遺跡との連携など
		平成20年10月4日 佐藤陽子氏寄贈「天使の翼」（ブロンズ）を設置
		平成22年3月27日 陶芸教室（太田治孝氏主催。芸術家池田満寿夫の陶芸にふれる一日）実施
		平成23年5月28日 陶芸教室実施（太田治孝氏主催）
		※以降毎年1回、3月下旬から4月初旬の桜の時季までに陶芸教室を開催
		平成24年6月 7日 「天使の門」（FRP）オブジェ寄付庭園のみ無料開放（開館日のみ）の開始
		平成24年11月3日～25日 開館5周年記念コンサート（11/3）及び満寿夫八方窯招待作家展（～25）展示
		平成27年2月28日 浄化水槽2施設の破損確認。法定点検前修繕実施。
		令和 1年9月30日 屋上防水改修工事を実施

伊豆山郷土資料館

生涯学習課文化交流室

伊豆山地区の要望などを受け、伊豆山地区及び伊豆山神社の文化財など郷土資料（賃借品）を展示、公開するために設けられた資料館。

- 1 着工 昭和54年 7月 9日
- 2 完成 昭和54年12月20日
- 3 開館 昭和56年 4月13日
- 4 総工費 44,968,000円
- 5 所在地 伊豆山字上野地708番地の2（伊豆山神社境内）
- 6 建物 鉄筋コンクリート造平屋建 延べ面積100㎡
- 7 公開 休館日：水曜日（但し祝祭日の場合はその翌日）、年末
開館時間：9：00～16：00
入館料：大人180円、中高生120円、小学生以下無料
団体 大人120円、中高生80円
駐車場：神社駐車場を使用（専用はなし）
- 8 管理 直営 会計年度任用職員3名登録、一営業日に1名が交代で勤務
平成14年に生涯学習課から文化交流課の管理となったが、
平成25年度から再度、生涯学習課の所管となる。
- 9 主な展示品 銅像走湯権現立像（伊豆山神社 県指定文化財）
頭髮曼荼羅（伊豆山神社蔵）は複製を展示
伊豆山経塚遺物（伊豆山神社 県指定文化財）
木造宝冠阿弥陀如来像及び脇侍蔵
（伊豆山浜生活協同組合 県指定文化財）ほか
※H28年2月～3月には、奈良国立博物館で特別展示が行われ、
展示品の貸出期間中は休館し展示ケースのクロス等張替を行った。

凌寒荘（旧佐佐木信綱邸）

生涯学習課文化交流室

佐佐木信綱が昭和19年12月18日から亡くなるまでの19年間住んだ旧宅で、信綱の没後、洋画家の宮本三郎が別荘兼アトリエとしても利用した。熱海在住の信綱ゆかりの短歌関係者などの要望により熱海市が取得、文化施設として公開するもの。

- 1 取得 平成15年9月19日 宮本美音子（故宮本三郎の長女）から熱海市土地開発公社が50,000,000円で購入。市は平成20年までの5年間で公社から買い戻し、平成21年4月10日所有権移転登記を完了し、同日付けで熱海市の所有となった。
 - 2 所在地 熱海市西山町12番18号（電話 0557-81-4433）
土地：569.53㎡
建物：母屋は昭和12年に建築された木造平屋建
その後、昭和47年8月宮本三郎が木造2階建のアトリエを増築137.42㎡（1階120.91㎡ 2階16.51㎡）
 - 3 一部開放 開放日：毎週土、日曜日
開放時間：10:00～16:00
入場料：無料
その他：庭園のみ、凌寒会会員により開放（謝礼有）
 - 4 経過 昭和19年12月18日 信綱が竹柏会の同人から屋敷を借り受け熱海に移り住む。後にこれを譲り受け、徳富蘇峰が「凌寒荘」と名付ける
昭和38年12月 2日 信綱没、その後、宮本三郎が取得
平成14年12月 2日 凌寒荘の保存を求める署名5,646名分が提出
平成15年 7月 2日 署名の追加1,037名分が提出（計6,683名）
9月19日 熱海市が取得、暫定的に庭園部分の開放を決定
平成16年 3月28日 庭園開放式典
平成21年4月10日付 償還終了により、土地開発公社より熱海市に所有権移転
（買戻し価格 52,363,488円 土地のみ）
平成21年 9月30日 熱海市凌寒荘条例公布
 - 5 その他 現在は庭園のみを一般開放しており建物内部に客は入れていない。施設前の旧市川家の敷地を江原氏が所有し、宗教関連施設が建設された。
駐車場についてはH26年4月から（旧市川家の駐車場）江原氏より借用1台。
- 佐佐木信綱 歌人、国文学者で号は竹柏園、歌誌「心の花」に拠り「竹柏会」を主宰。
万葉集研究の第一人者としても知られ、昭和12年第1回文化勲章を受章。
明治5年6月3日三重県鈴鹿市生まれ 昭和38年12月2日、92歳で没